

◆財政シミュレーションに関する質問と回答

⇒ 財政シミュレーションの詳細については、こちらの資料「特別区制度（案）」をご覧ください

質 問	回 答
Q1) 「特別区の財政シミュレーション」は、どのように試算しているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市が毎年度作成している「今後の財政収支概算（粗い試算）」（2018年（平成30年）2月版）を推計の基礎としています。 ・特別区制度（案）における区割りや事務分担、組織体制、財政調整などの制度設計を前提に特別区と大阪府に仕分け、これに反映されていない改革効果額・組織体制の影響額・特別区設置に伴うコストを加味して試算したものです。
Q2) 「特別区の財政シミュレーション」では、「相当の幅」をもって見る必要があるとのことだが、住民サービスの低下がないと言い切れるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の財政推計は、税収の伸び率など、確実に見込むことが難しいものについて、一定の前提条件をおいたうえで、行わざるを得ない性格のものであるため、「相当の幅」を持って見る必要があるものです。 ・仮に収支が推計より下振れすることとなった場合は、国の地方財政対策などを踏まえつつ、財政調整基金の取崩しによる対応や、歳出抑制（経費削減等）・歳入確保（公有地の売却・地方債の活用等）などにより対応することとなりますが、それはどの団体でも共通することであり、今の大阪市のままであっても同じことです。
Q3) 「特別区の財政シミュレーション」にある改革効果額とはどのようなものか。	<ul style="list-style-type: none"> ・改革効果額は、2011年（平成23年）度の大阪府市統合本部設置以降の大阪府・大阪市の取組のうち、いわゆる「AB項目」及び「市政改革プラン」に基づくものについて、財政的効果を試算したものです。 ・財政シミュレーションに反映させている効果額は、シミュレーションのベースとなる「今後の財政収支概算（粗い試算）」（2018年（平成30年）2月版）に未反映の効果額に限定して算定したものです。 ・算定の内訳等は、「特別区設置における財政シミュレーション」をご覧ください。
Q4) 特別区の設置に係るコストの財源は、どこから出すのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別区を設置するための経費としては、システム改修等の経費や、体制整備による人件費の増加などを想定しています。 ・一方で、試算時点以後も、改革効果額や技能労務職員の退職不補充による財政効果の発生が見込まれるほか、特別区設置後の初めの10年間は財源配分に特別の加算を行うなど特別区の財源を充実する措置も講じることとしています。 ・それらを加味した「特別区設置における財政シミュレーション」では、特別区に収支不足が発生しない見込みとなっています。
Q5) 今後、少子高齢化が進めば、社会保障経費が増え、財政は厳しくなるのではないかと。こうした中で、本当に財政運営は可能なのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別区設置における財政シミュレーション」のベースである「今後の財政収支概算（粗い試算）」では、今後の社会保障経費について、一定の前提条件のもと見込んで算定されています。その上で、特別区に収支不足が発生しない見込みとなっています。
Q6) 財政調整基金とは何か。収支不足時には、これを取り崩すというが、どんな影響があるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・財政調整基金は、不況による税収の減や災害の発生による予期しない経費の支出などによる収支不足の事態に備えて積み立てている貯金です。 ・収支不足となる年度に取り崩すことで、市民の方々へのサービスを維持し、計画的な財政運営を行うことができます。